

育児両立・進路選択のハードルを越えるために

国立大学法人 東北大学
杜の都女性科学者ハードリング支援

創立：1907年(明治40年)
理念：研究第一・門戸開放・実学尊重
10学部、15研究科、3専門職大学院、
5附置研究所、17教育研究施設等
教職員：5,300名、学生：17,800名



東北大学は1913年(大正2年)わが国の大学として初めて3名の女子学生を理学部に入学させました。その伝統の下、平成13年度に男女共同参画委員会が発足し、東北大学宣言、男女共同参画シンポジウム開催、男女共同参画奨励賞、アンケート活動、学内保育園開園等を通じ、男女格差の是正、研究・労働環境の改善、両立支援体制の充実などに努めています。それらの活動により男女共同参画意識は向上しました。そのような成果を踏まえ、本学の「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」が平成18-20年度の文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に採択され、現在女性研究者育成支援推進室が中心となって実施しています。

本事業では自然科学系の女性科学者のキャリアパス形成の障害(ハードル)を乗り越えるための諸制度の整備を目指し次の3支援プログラムを展開中です。

1. 育児介護支援プログラム：研究支援員利用制度は育児中の女性教員等へ実験補助者を長期派遣します。ベビーシッター利用料補助制度は女性教員・院生等がベビーシッターを利用する経費を補助します。平成19年4月より育児のための短時間勤務制度が試行中です。さらに勤務実態を考慮した研究・教育業績評価と任期延長を検討しています。
2. 環境整備プログラム：大学病院の病後児保育室「星の子ルーム」を全学の教職員と学生が利用可能になりました。また平成20年3月には女性用休憩室が全ての自然科学系研究科・研究所で整備が完了します。
3. 次世代支援プログラム：自然科学系女子大学院生によるサイエンス・エンジェル制度を創設し、平成19年度は50名が母校出張、大学オープンキャンパス、地域科学イベントで、科学者を志す女子中高生のロールモデルとして活動しています。また女性研究者フォーラムやネットワーク(MORIHIME.NET)により全学及び各部局での女子学生・研究者交流を図っています。



総括責任者：東北大学総長 井上 明久
実施責任者名：東北大学副学長 野家 啓一
連絡先：女性研究者育成支援推進室
Tel: 022-217-5912、FAX: 022-215-5914
URL: <http://morihime.tohoku.ac.jp>
E-mail: mh_office@morihime.tohoku.ac.jp



女性研究者支援モデル育成

「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」

東北大学女性研究者育成支援推進室



東北大学におけるこれまでの取り組み

- 旧帝国大で初めて3名の女子学生を受け入れ(大正2年)

我が国の大学として初めて女性に門戸を開き、丹下ウメ・牧田らく・黒田チカ(写真左から)の3名の女子学生が理学部に入学



- 男女共同参画委員会の発足(平成13年)

- 東北大学宣言(平成14年)

大学での男女共同参画型の教育・研究活動の実施が21世紀の重要課題であることを認識し、東北大が全国の大学の先駆となるべく率先して男女共同参画社会の実現のために積極的な取り組みを勧めることを宣言。

男女共同参画委員会の取り組み

- 男女共同参画シンポジウム開催
- 男女共同参画奨励賞(沢柳賞)創設
- 男女共同参画相談窓口開設、アンケート実施
- 学内保育園開園(平成17年)
- 大学間ネットワークの構築

しかし、本学の特長(自然科学系が大多数)から、平成17年での女性教員比率は7.7%、自然科学分野6.3%

1.実験等による時間と設備の両面で拘束が大きい事を考慮した特段の措置と、次世代の女性科学者の育成が不可欠。2.研究・教育環境の改善と積極的な支援が必要

「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」発足(平成18年)



杜の都女性科学者ハードリング支援事業(平成18年~)



女性科学者のキャリアパスにおいて障害となるハードルを乗り越えるため、育児・介護支援・環境整備・次世代支援の3つを柱とするプログラムを展開

1. 育児・介護支援プログラム

女性研究者の育児と研究の両立を支援

☆ 支援要員制度

- 育児中の女性教員等へ実験補助者を長期派遣

☆ ベビーシッター利用料補助制度

- 女性教員・院生等のベビージッターを利用経費補助

☆ 育児のための短時間勤務制度(H19.4より試行)

- 週20時間までの部分休業の容認

『この支援要員制度のおかげで子育てをしながらでも、研究が着実に進展していると感じています。』
『金銭面ではもちろんのこと、大学からの心強いサポートのおかげで気持ちの上でもゆとりをもって仕事を進めることができました。』

2. 環境整備プログラム

女性研究者の職場環境の改善

☆ 病後児保育室「星の子ルーム」拡充

- 回復期の病児を看護・保育

大学病院地区のみ
拡充(H18年~)



- 全学職員・学生が利用
- 18時まで保育延長

☆ 女性用休憩室

- 全ての自然科学系研究科に設置(H18年度達成)

3. 次世代支援プログラム

次世代の女性研究者の育成

☆ 女性研究者ネットワークの整備 MORIHIME.NET

- 本学所属の女子学生・女性研究者(学術分野問わず)
- 女性研究者等の育成を推進するための情報交換

学内での男女共同参画を促進

☆ サイエンス・エンジェル制度

次世代女性研究者の育成や、研究に従事する使命感・責任感の醸成のため、自然科学系部局の女子大学院生をサイエンス・エンジェル(SA)として雇用

◆ 各部局における女子学生交流会の企画・実施

東北大学の女性研究者の世代や分野を越えた交流

- 外部講師を招いて講演会
- 茶会(お茶菓子を囲んで交流)

H18.H19年実施:女子院生交流会(全学)、理学・農学・歯学・生命科学研究科

◆ 母校出張セミナー

出身校(主に高校)で出張セミナーを開催

H19.6宮城一女高、清泉女学院高、他16校で実施

- 体験談を交えながら、研究内容・様子をプレゼン

VOICE

『得意な科目の学部を『自分のやりたいこと』
『理数系は全然だ 選んでいただけ、好きとができる大学を、
めだけど、理系も なことをもう一度考え きちんと調べようとい
いいなと思った』 て決めようと思う』 いう意欲が出た』

◆ オープンキャンパスでの女子学生セミナーに参加

理系進学に興味のある女子高生の

H19.7実施
参加者数約60名(保護者、引率含む)
参加SA人数22名

疑問・悩み・相談

様々な分野のSAとグループトーク

女子高生の持つ『絆(可能性)』を広げる

◆ 市民との科学コミュニケーション

科学館・博物館などでSAが研究をわかりやすく紹介
(仙台市科学館H19.2、亶理町博物館H19.5、仙台市博物館H19.11)

→ 科学を身近に感じてもらい、おもしろさ・親しみさを広める

VOICE

『不思議なことがたくさんあって面白かった。』

--中学生以上--

『展示とさらに直接質問の答えがありとても良い。』

『理科は好きだが、詳しく知ることができて良かった。』

--大人--

『子供や学生が自然科学に興味を持つきっかけになると嬉しい。』

『子供達が目を輝かせて説明を聞いたり質問したり素晴らしい。』

VOICE

『楽しかった。女性で研究している人の話は参考になった。』
『女子大学院生の研究発表はめったに聞けないので、とても楽しめました。』

SAが研究を模型で説明

分かるポスターを製作

SA用ブルゾン